

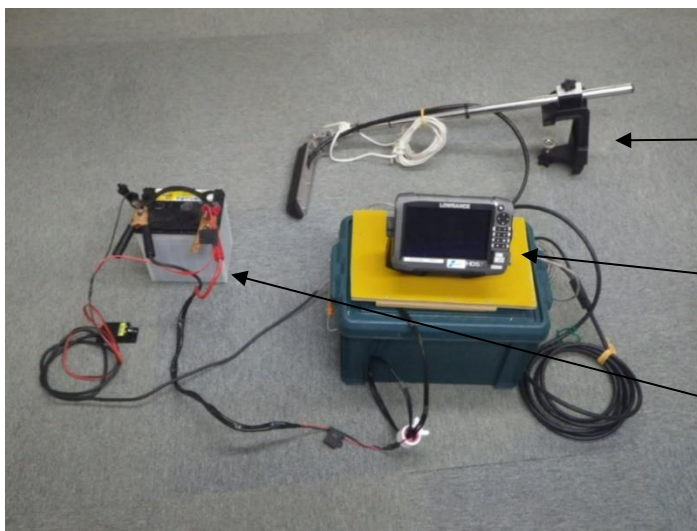
# 「ほうじょう」コラム

## 題 船外機船で簡易に行える音響機器を用いた海底調査

海中の魚を捉える機器を「魚群探知機（魚探）」と呼んでいますが、これは音波を利用した音響機器です。

魚探では、魚群探知の他、水深や海底状況を調べることも出来るのですが、船の直下しか調べることが出来ず、船の側方を探知することは出来ません。従って、船の側方も含めた立体的な海底状況を調べるためには、サイドスキャンソナー、マルチビームソナーと呼ばれる音響機器を用いる必要があります。

これら音響機器は、従来、数千万円もする機器でしたが、近年、遊漁船用に低価格のものが開発されました。そこで、当試験場でもこれを導入し、浅海域での海底調査を行うことになりました。



機器一式はこれだけです。

トランスデューサー

本体

バッテリー

バッテリーへの接続やケースへの収容など、出来る限り簡易に行えるように加工しました。



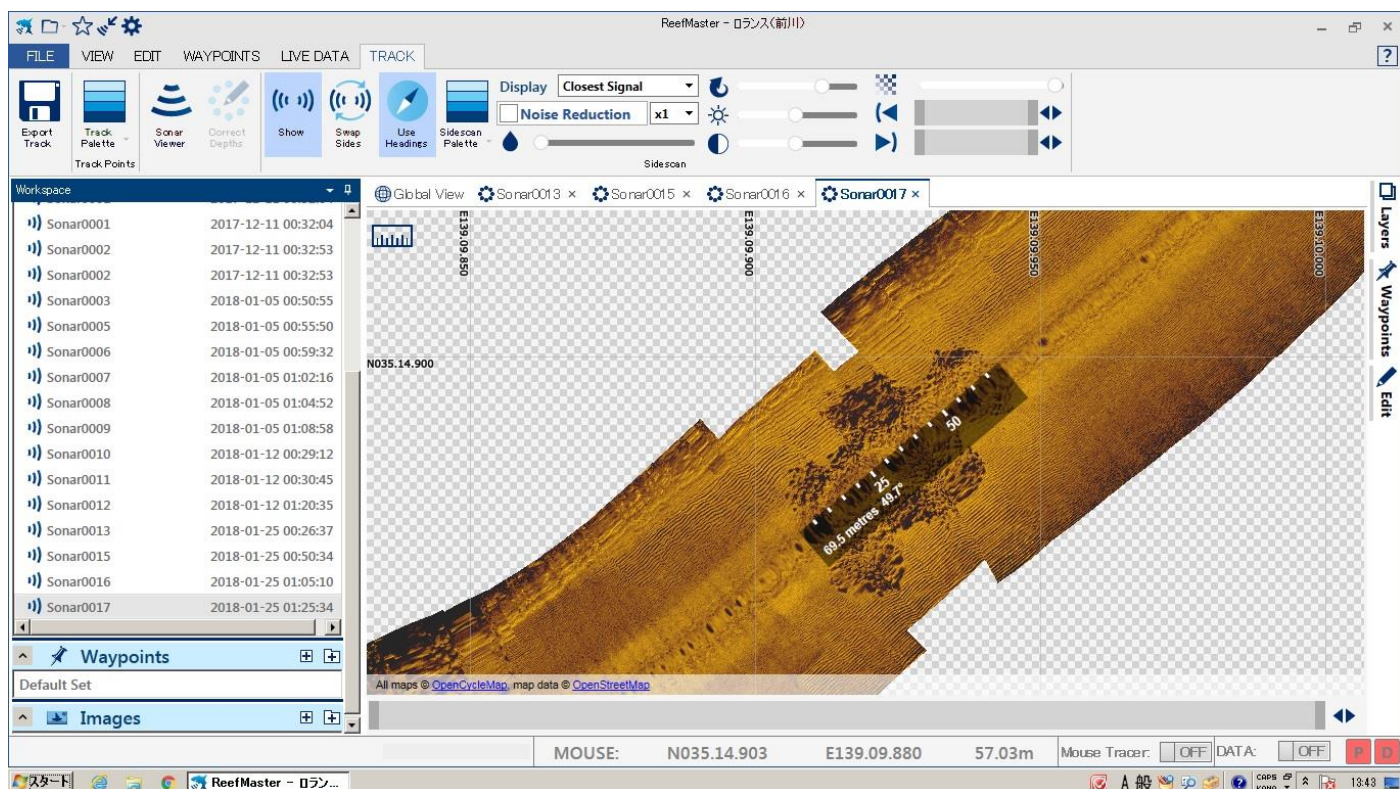
浅海域まで船外機船「はやかわ」を曳航して行き、現場でトランスデューサーを取り付けます。



調査状況



調査した海域の海底地形



収集したデータを解析した結果（画像は約70mの人工漁礁）

このように、海底の状況を調査し、藻場の生育状況や流木等の有無など様々なことを把握することが可能になりました。それらの情報を用いて、磯焼け対策や漁場環境の維持に活かし、県民の期待に応えていきたいと考えています。

私たちの業務の一例をご紹介しましたが、今後も装備資機材を有効に活用して、海域の状況調査を効果的に推進していきます。